

松嶋夜話 卷之下 70

〔原文〕此月有松島九十八代我祖大悲圓滿國師雲居和尚

〔訓読〕此の月、松島九十八代の我祖大悲圓滿國師雲居和尚有り

※雲居希膺：天正一〇年生まれ。臨濟宗。京都妙心寺の一亩東黙の法をつぐ。塙直之との縁で大坂冬の陣のとき大坂城に籠城、捕らえられた。陸奥仙台藩主伊達忠宗にまねかれ、松島瑞巖寺を再興。のち妙心寺住持。万治〇年〇月〇日死去。〇〇歳。土佐出身。俗姓は小浜。諡号は慈光不昧禪師、大悲円満国師。別号に把不住軒。著作に「般若心經大意」。

〔原文〕匿于勝尾山遠林房

〔訓読〕勝尾山の遠林房に匿る

〔原文〕政宗親子勝尾請來中興松島

〔訓読〕政宗親子、勝尾より請ひ來りて、松島を中興す

〔原文〕蓋以瑞巖寺者太守政宗鼎建曰山於松島青龍山

〔訓読〕蓋し以んみれば、瑞巖寺は、太守政宗の鼎建、山を松島の青龍山と曰ひ

〔原文〕曰寺於瑞巖圓福寺

〔訓読〕寺を瑞巖圓福寺と曰ふ

〔原文〕加添舊山寺號也

〔訓読〕舊山の寺號を加添するなり

〔原文〕方丈桁行二十五間

〔訓読〕方丈桁行二十五間

〔原文〕其梁間十五間

〔訓読〕其の梁間、十五間

〔原文〕玄關長廊鐘樓庖湄庫院恰似方丈造焉

〔訓読〕玄關長廊鐘樓庖湄庫院、恰も方丈に似て焉を造る

〔原文〕所造材木盡自熊野山運漕來

〔訓読〕造る所の材木盡く熊野山より運漕し來る

〔原文〕室中戸障盡金地裱隔亮隔也

〔訓読〕室中戸障盡く金地の裱隔、亮隔なり